



田村市立都路中学校

学校だより 第32号

令和6年12月20日（金）
発行責任者：校長 佐藤 仁
TEL：0247-75-2009

めざす生徒像：自らの志を語り、目標に向かって主体的に努力できる生徒

めざす学校像：志を育む学校 学び合い、高め合う学校 信頼され、愛される学校

がむしゃらにトライ！

新聞は情報の宝庫です。政治や経済、スポーツ、地域の話から、私たちにどう生きるべきか示唆を与えてくれる記事まで様々な情報が載っています。

勉強や部活動などががんばる生徒の皆さんの背中をちょっと押すような内容の記事を共有したいと思います。



どんな分野でもいいから「自分が本当に好きなこと」を見つけるのが大事。周囲の雑音を気にせず、試行錯誤して探してほしい。
(11月26日福島民報 「支えているのは福島之力」)

進路に悩んでいる学生がいたら、今を必死に生きている自分の背中をそつとなでてあげてほしい。何かにトライして続けば深掘りする。続かなければ、なぜ挑戦しようかと思ったのかを考える。その経験を基に次は何が続けられそうか、考えてから踏み込んでみる。数年後には「あの頃は・・・」なんて笑って振り返る未来がやってくると思う。

がむしゃらにトライ&エラーを続ければ、少しずつ自分に合った何かをつくりあげることができると思う。人生100年時代。短いようで長い人生、いろんなきっかけをつかみ、いつか何者かになった自分をほめてあげたい。「みっかぼうず」は、一日でも何かに取り組んだという人生の大きな経験になるのだから。
(11月29日福島民報 「民報サロン」から)

「失敗をおそれるな」ということばがあるが、それは限りなく難しいことだと思っている。

過去に失敗して笑われたり、いじめられたりして自信をなくしたことがある人はいるだろう。私はメンタルがすこぶる弱いため、どうしたら失敗せずに済むのか神経を使うようになった。また、失敗は悪いことだと感じているため、「失敗してはいけない」「常に完璧でいなければならない」などと思うようになった。「失敗をおそれるな」と言われても、どうやって？と思う。おそれないための具体的なプロセスはないだろう。人間は一人一人、今まで経験したことや価値観、性格などが違うからである。個人としては、失敗した時の居心地の悪さを受け入れ、それを恥と思わず力にして、動いていく勇気を持ちたい。失敗するたびに立ち上がることは「失敗しないことより価値がある」と知ることが大事だと思う。

(12月16日福島民報 みんなの広場 高校生18歳)

がむしゃらにトライ&エラーを繰り返して「自分が本当に好きなこと」を見つけることができるのだと思います。「みっかぼうず」でも、トライしたことには変わりません。トライしたことで何かを感じたり、その後の新たなトライの準備になったりします。

18歳の高校生が書いているように、トライすることの価値を理解していながら一步踏み出せないのは、失敗した時のリスクを考えるから。年を重ね経験値が上がるほど、新しいことにトライすることに対して慎重になったり臆病になったりします。それも成長の一つではありますが。

「見る前に飛べ」という言葉があります。人は「見て」しまうとリスクばかりを考え諦めてしまう。見る前に（マイナスなことを考える前に）、飛ぶ（やってみる）ことが大切な時もあります。

10代でしかトライできないことがあります。10代だからこそ許されるトライがあります。生徒の皆さんには、中学校卒業後の自分にプラスになることにどんどんトライしてほしいと思います。